

成人学生に対する学習コミュニティ及び学習センターによる その活動支援に関する実態調査

Survey on Learning Communities for Adult Students and Support for Their Activities by Study Centers at The Open University of Japan

辻 靖彦*, 芝崎 順司*

Yasuhiko TSUJI*, Junji SHIBASAKI*

*放送大学教養学部

*Faculty of Liberal Arts, The Open University of Japan

Email: tsuji@ouj.ac.jp

あらまし：放送大学では、アクションプランの中で学生同士の学び合い・教え合いの推進を掲げている。本稿では全国に50カ所存在する弊学の学習センターに焦点を当て、センターが主催する学習支援活動および学生同士の学び合いの実態を把握するためにアンケート調査を実施した。その結果を踏まえ、学習センターにおける学習支援の取り組みと学生コミュニティの構築に向けた現状と課題を整理した。

キーワード：生涯学習、遠隔教育、学生同士の学び合い、学習コミュニティ

1. はじめに

生涯学習は第3期教育振興基本計画（文部科学省2018）の中で推進が求められており、放送大学はその中で社会人に対して学び直しの機会を提供することが求められている。そのような状況のもと、放送大学ではアクションプラン⁽¹⁾の中で学生同士の教え合い・学び合いの促進を掲げている。

そのために本研究では、これまで全国の学習センターを対象にアンケートとインタビューによる学生同士の教え合い・学び合いに関する実態調査⁽²⁾を行い、学生サークルの現状と課題について整理を行ってきた。本稿では、先行調査よりも調査の幅を広げて学習センターの学習支援活動に焦点を当て、各学習センターにおける学習支援の取り組みと学生同士の学び合いの実態を把握するためにアンケート調査を実施した。

2. 学習コミュニティおよびその活動支援に関する実態調査

2.1 アンケート調査の概要

全国の学習センターを対象に行った質問紙調査の概要を以下に示す。

目的 学習センターにおける学習支援への取り組みおよび学生同士の学び合い・教え合いの実態を把握するため

期間 2020年2月13日～3月24日

対象 全国50カ所の学習センターの所長先生

方法 Web アンケート

調査項目 以下のA)～C)の3カテゴリに対して合計14問で構成されている。

- A) 学習センターが主体となっていて行っている学習支援への取り組みについて（5問）
- B) 学習センターにおける教え合い・学び合いを行うボランティアグループや学生サークルについて（5問）
- C) 各学習センターにおける自己学習サイトの活用状況について（4問）

なお、本稿では A)と B)の回答結果についてのみ報告する。

2.2 回収率

本調査の回収率は88.0%であり、50の学習センターの中で44センターから回答が得られた。

2.3 分析結果 A) 学習センターが主体となっていて行っている学習支援への取り組み

調査項目 A)の回答結果を示す。始めに、学習センターが主体となっていて行っている学習支援への取り組みの有無について聞いた所、88.6%（39機関/44）の学習センターが何らかの取り組みを行っているとの回答が得られた。次に具体的にどのような取り組みを行っているかを複数選択で聞いた結果を図1に示す。これより、「客員教員等による学習会・セミナー等」（88.6%、39機関）、「履修相談」（84.1%、37機関）、「卒論や修論の研究発表会や相談会」（63.6%、28機関）の順に多い結果となった。更に、主な活動3つに対して開催頻度と参加人数を聞いた所、「客員教員等による学習会・セミナー等」においては「月数回程度」の開催頻度で「6～10名」の参加人数が最も回答数が多く、「履修相談」では「随時」開催しており各回「1～5名」の参加人数と回答した機関が最も多く、そして「卒論や修論の研究発表会や相談会」では「年1回程度」の開催頻度で各回「21～50名」の参加人数であると回答した機関が多かった。

2.4 分析結果 B) 学習センターにおける教え合い・学び合いを行うボランティアグループや学生サークル

調査項目 B)の回答結果を示す。始めに放送大学における学習のための、学生同士の教え合い・学び合いを行うもしくは支援するボランティアグループや学生サークルの有無について聞いた所、79.5%（35機関/44）の学習センターにおいてそのようなグループやサークルが存在することが分かった。次に「存

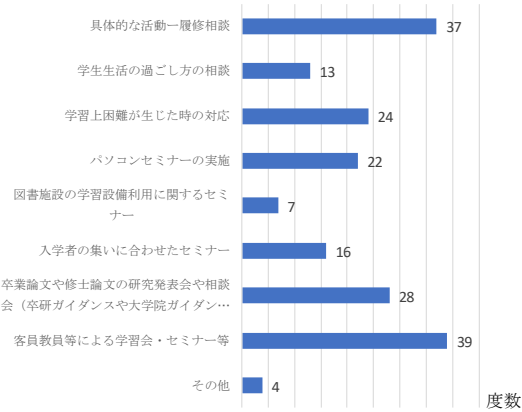


図1 学習支援の取り組みの具体的内容 (複数選択可)

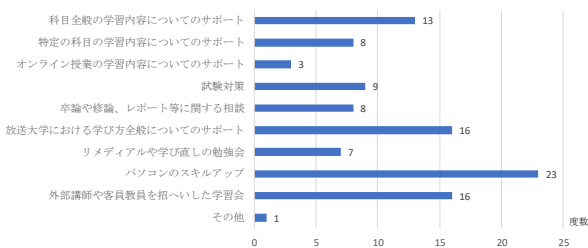


図2 ボランティアグループやサークルの具体的な形式 (複数選択可)

在する」と回答した機関 (N=35) に対して、そのようなグループやサークルの具体的な形式について複数選択で聞いた結果を図2に示す。これより、「パソコンのスキルアップ」(65.7%, 23機関)、「放送大学における学び方全般についてのサポート」(45.7%, 16機関)、「外部講師や客員教員を招へいた学習会」(45.7%, 16機関)、「科目全般の学習内容についてのサポート」(37.1%, 13機関)の順に大きい結果となった。続いて、サークル名や活動人数、活動頻度等について分かる範囲で回答させた自由記述を分析した所、各サークルで学んでいる、もしくは実施している内容は図3のようになった。これより、サークルやグループで最も多いものはパソコンサークル(48.6%)、次に英語(37.1%)、続いて英語以外の語学(25.7%)、心理学(22.9%)の順になった。

このようなグループやサークルに対して、学習センターが行っている支援内容の回答結果を図4に示す。これより、「活動場所(部屋)の提供」(100%, 35機関)、「コピー機やプリンタ使用の便宜」(68.6%, 24機関)、「PCやタブレットコンピュータ等の貸与」(65.7%, 23機関)、「広報活動への支援」(51.4%, 18機関)の順に回答の割合が高い結果となった。

最後に各学習センターにおいて、学習支援やボランティアグループ・学生サークルに対する支援などの課題、あるいは放送大学の学生による主体的学習活動への参加を促すためのアイデアなどを自由記述で回答させた所、懸念事項においては「サークルやグループの新陳代謝が無い」記述が29.5%(13機関)

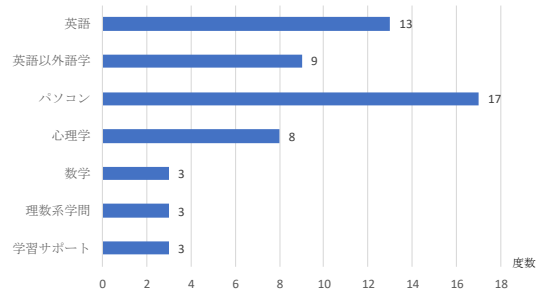


図3 グループやサークルで学んでいる・実施している内容 (自由記述)

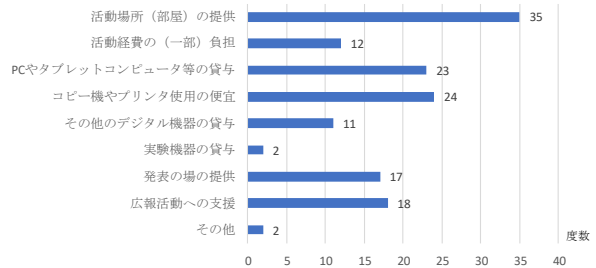


図4 学習センターがグループやサークルに行っている支援内容 (複数選択可)

と最も多くみられた。続いて「学生の不足」が13.6%(6)の機関で、そして「若い学生の不足」が9.1%(4)の機関で見られた。主体的学習活動への参加を促すためのアイデアとしては「多くの学生が参加するイベント等」が18.2%(8)の機関で回答がみられ、続いて「イベント実施を支援」するアイデアが13.6%(6)の機関で、そして「学習センターで定期的な意見交換の実施」が9.1%(4)の機関で見られた。

3. まとめと今後の課題

前節より、弊学の各学習センターが実施している学習支援の取り組みおよび、ボランティアグループや学生サークルで学んでいるもしくは実施している内容の実態がそれぞれ明らかになった。しかし、学習センターが実施している取り組みにおいては月に1回以上の定期的で開催しているイベントには参加人数にばらつきがみられ、そして学生同士の教え合い・学び合いを促すグループや学生サークルにおいては「新陳代謝が無い」「(若い)学生が少ない」などの課題も明らかになった。

今後、これらの課題の解決方法として、多くの学生が参加したくなるような学習センターのイベントの実施といったオフラインでのアプローチ方法と、Web上の学生コミュニティの構築や促進といったオンラインにおけるアプローチ方法を合わせて検討していく必要があると考えられる。

参考文献

- (1) 放送大学: “Vision’17”, http://www.ouj.ac.jp/hp/gaiyo/action_plan.html (取得日: 2020年6月9日) (2017)
- (2) 辻 靖彦, 芝崎順司, “放送大学におけるリメディアル教育に関する実態調査と学習コミュニティ構築への展望”, 放送大学研究年報 第36号, pp.149-156, (2019)